

火入れ 放牧 草刈り

信州の草原の里

菅平高原・峰の原高原草原 北アルプスを望む百名山の草原

応募者：根子岳・四阿山保全協議会 **所在地**：上田市、須坂市
所有者：菅平牧場畜産農業協同組合、上田市東御市真田共有財産組合、財団法人仁礼会、井上共有財産組合、上田市、
 菅平旅客索道協会加入の土地所有者群、筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所
管理者：所有者ほか **面積**：502 ha **指定状況**：国立公園、日本百名山

草原の概要と景観

花の百名山・根子岳と百名山・四阿山の西面～南面方向に広がる緩やかな斜面が菅平高原・峰の原高原です。ほぼ全域が、1947年以前は一続きの連続した草原でした。黒ボク土の年代測定で4300年前から草原が続いていたと推定されています。標高2000m以上はササ藪、それ以下では森林化が進んでおり、草原は断片化して分布しています。北アルプス、北信五岳、浅間山、八ヶ岳などの眺望が良い。



高原に花咲くキキョウ

草原を特徴づける動植物

草原に分布している環境省指定の絶滅危惧種は、植物ではムラサキ・ベニバナヤマシャクヤクや地域特産種のツキヌキソウ・グンバイヅルなど9種、蝶ではアカセセリ・コヒョウモンモドキ・ヒョウモンチョウや長野県天然記念物のミヤマモンキチョウ・ベニヒカゲなど7種、蛾ではルリハダホソクロバ・ヒメズズメなどの4種があります。根子岳はウメバチソウによって花の百名山に選ばれました。



クガイソウを訪れるコヒョウモンモドキ

草原の利用

茅利用、採草、山菜、放牧、スキー、学校教育、環境学習、体験交流、自然観察会

乳牛・短角和牛の放牧や牧草採草などの畜産（菅平牧場）、ススキ草原のスキー場（菅平旅客索道協会等の5社）、研究・教育（筑波大学）、ワラビ等の山菜採集、11小学校の学校登山、年間数万人の一般登山、陸上トレーニングの「野口みずきクロカンコース」、希少植物保護を目的とした茅刈り（やまぼうし自然学校）、茅の文化財の保護・再建への活用、などの草原利用が行われています。



シバ草原の短角和牛

管理

草刈り、刈草の持ち出し、山焼き・野焼き、放牧、播種

牧場では上田市条例の規制によって5haを上限とした火入れが毎春行われ、スキー場・ランニング路・クロスカントリー路・筑波大学では刈払が毎年行われています。峰の原高原では山野草観光のための草原整備の一般参加イベントが、笹藪化した根子岳では草原再生のための笹刈りイベントが、菅平高原のスキー場周辺では希少植物保護のための草原維持・再生活動が、毎年行われています。



牧場の火入れ

今後の展望、メッセージ

草原管理の従来の担い手だけではなく、地域内外の多くの人々が草原維持を自分の課題だと受け止めなければ、急速に消失しつつある草原を後生に遺すことはできません。今回、行政界・業態・立場をまたいだ草原関係者が一致団結して、草原の里に選ばれました。これをきっかけに、この草原の価値を地域内外で共有して、草原の維持・再生への機運を高めていければ素晴らしいと思います。



筑波大学山岳科学センター
菅平高原実験所 田中 健太